

# 日本人英語学習者の because 節の 断片文使用に関する予備的研究

甲 斐 順

## 1. はじめに

2019年度4月の全国学力・学習状況調査(以下、全国学力調査)では、中学校3年生を対象に初めて英語が実施された。同年7月に公表された結果は、中学生に英語の発信力も基礎力も不足していることを示し、中でも接続詞の習得に課題が見られることが明らかになった(『朝日新聞』, 2019年8月1日朝刊)。

接続詞には、文と文を対等につなげるもの(例, and, but), 条件や時を示すもの(例, if, when), 理由を示すもの(例, because, since)などがあるが、本研究では理由を示す接続詞 because を対象とする。英語のエッセイライティング、特に意見表明文では意見を書くだけでなく、その理由を明確に示すことが必要とされ、because の使用が重要となる(佐々木, 2021)。中学校の英語教科書(6社)で理由を表す接続詞は because だけである(立川, 2020)が、全国学力調査では、中学校学習指導要領の「書くこと」の領域に係る出題で because の習得に課題があることが指摘されている(甲斐, 2021)。この課題の中に because 節の断片文使用に関するものがある<sup>1</sup>(例, 甲斐, 2018; 小林, 2009)。断片文とは、because が文頭で用いられ、主節を持たない文のことを指す(小林, 2009)。これは日本人英語学習者の特徴であると言われ、誤った書き方である(Barker, 2010; Larsen-Freeman & Celce-Murcia, 2015; 南出, 2014)。例えば、『ジーニアス英和辞典』第5版では、次のように記載されている。

[Because で文を始めない] よく日本人は× I'm sorry I couldn't be there. Because I was busy. のように主節と because 節を別々に書くが、これは誤り。I'm sorry I couldn't be there, because I was busy. のようにするのが正しい。ただし、why 疑問文に答える場合は別。(p.187) (強調は原文のまま)

because 節を断片文として表現する誤りは、日本人中学生から大学生まで見られる(小林, 2009)。この原因として、①母語である日本語の影響(甲斐, 2018, 2019; 小林, 2009; 白畑, 2015)、②中学校英語教科書の影響(甲斐, 2018, 2019; 小林, 2009; 白畑, 2015; 立川, 2020)、③教員の指導による影響(甲斐, 2019; 立川, 2020)が指摘されている。ほとんどの研究が学習者の産出に焦点を当てているが、理解についての研究(白畑, 2015)は少ない。そこで本研究では、日本人英語学習者の because 節の断片文使用に係る産出、理解の双方に焦点を当て、誤り

の原因を調査し、because 節の指導に資することを目的として行う。

## 2. 先行研究

本節では、日本人英語学習者の because 節の断片文使用に関する先行研究を概観した上で、研究課題を設定する。

先行研究は学習者の産出と理解の研究に分けられる。前者では、コーパスを用いた研究が行われている。小林 (2009) は、日本人中高生の英作文を集めた JEFLL Corpus 及び日本人大学生の英作文を集めた ICLE-JP の2つを、立川 (2020) は、JEFLL Corpus に加えて、米国英語の BROWN Corpus 及び英国英語の LOB Corpus を、佐々木 (2021) は、JEFLL Corpus の高校生サブコーパスデータと ICNALE Written Essays の母語話者データを利用した。これらの研究結果の共通点は、日本人英語学習者は低学年ほど because を文頭で使用し、その場合断片文としていることである。興味深いのは、立川 (2020) が日本人英語学習者の中に because の直後に不必要なコンマを打つこと、佐々木 (2021) が高校1年生と2年生の間で because 使用に関して大きな開きが見られ、断片文の使用が高校1年生を特徴づける、と指摘している点である。これらの点は、学習者の because 節の習得の1つの尺度になる可能性がある。

断片文を引き起こす原因について小林 (2009) は、①母語の影響、②「書き言葉」と「話し言葉」という文体の混在、③会話重視の中学校英語教科書の影響、の3点が推察されると述べる。立川 (2020) は、中学校英語教科書6社中5社で学習者が最初に接するのが“Why?”に対する返答の because 節の断片文で、会話文中心の1年生の間、接し続けることから、教科書インプットの影響及び口頭によるコミュニケーション指向の授業の影響を示唆する。また主節を伴わなくても「～(だ)からです」で文が完結する日本語(母語)の影響も指摘する。佐々木 (2021) は、高校英語授業での because 使用に関するインプット不足の可能性や、授業等のインプットが学習者のアウトプットに反映される可能性などを指摘している。

Murakoshi (2012) は、JEFLL Corpus も参照しながら、中級程度の英語力の高校における生徒219人が1年生から3年生まで年度当初に書いた英作文データを分析した。その結果、① because 節の使用率が高いこと、② because 節の断片文の使用率は1年次が最も高く、学年が進行しても引き続き見られること、③ because 節を正しく使用できる率は、学年進行とともに上昇、④ because 節の正用法におけるスピーチ単位の分析の平均は学年進行とともに上昇、⑤当該校と JEFLL Corpus 上級者の高校生データを比較した場合、上級者はすべての学年で because 節の正用法を習得していることを示したが、高校1年次の差が顕著であること、が明らかになった。習熟度に関して高校1年生が分岐点になっていることが興味深い。

産出に関してコーパスを利用していない研究もある。甲斐 (2018) は、高校2年生81人が定期試験で書いた英作文及び英作文で断片文を使用していた学習者のアンケートを分析した。結果として、① because 節を使用していた25人中14人が断片文を使用し、②断片文使用に母語や教科書が影響した可能性のあることが示唆され

た。甲斐は研究の限界点に、because 節が選出されやすい条件下でデータを収集できていないため、サンプル数が少なくなったことを挙げている。また甲斐(2019)は、高校1年生80人を対象に、学習者のすべての誤りに対して訂正を行う「包括的な訂正フィードバック」を通じて、ディベートと定期試験で書いた英作文及びアンケートを利用・分析した。その結果、①断片文の使用率は、定期試験の英作文の方が高いこと、②断片文使用に関して、母語、中学校英語教科書、中学校教員の指導の順に影響が見られること、③1度だけの包括的な訂正フィードバックは効果が見られないことが示された。甲斐の2件の研究は、アンケートから学習者の because 節断片文使用に関する原因を探っている点が特徴である。

ここからは because 節の理解に関する研究について述べるが、筆者の知る限り白畑(2015)に限られる。白畑(2015)は、because を含めた複数の接続詞 (if, while など)、接続詞句 (as long as など)、前置詞 (during) について、高校2年生40名を対象に明示的な指導を行い、その効果を「文法性判断+誤り訂正」の事前・事後・遅延テスト法で検証した。事前テストでは平均して44.8%の正答率が、接続詞等の指導を受けた直後テストでは80.7%に達し、12週間後の遅延テストでもその正答率は下がることがなかった。この結果について、接続詞の誤用への明示的指導が持続可能な有効な方法であることが実証されたと白畑は述べる。

先行研究では日本人英語学習者の because 節の産出データの分析を中心に使用状況が明らかにされているが、理解の研究は少ない。また、学習者の産出と理解の両方を測定し、because 節の習得状況を明らかにした研究は現段階ではない。佐々木(2021)や Murakoshi(2012)が指摘するように、高校1年生と2年生の間が because 節の断片文使用の分岐点だとすると、習熟の境目である可能性がある。立川(2020)が指摘する because 節の直後にコンマを置く英文の産出についても習熟度の違いを示す指標となる可能性がある。甲斐(2019)は、アンケートを用いて断片文使用の原因を探っているが、例えば、正しい知識を持つ学習者がそれを学習した時期に関する設問は「高校入学以前」のようにあいまいな記述となっている。甲斐(2019)のアンケートを改良することで、because 節の断片文使用に関する原因がより明確になる可能性がある。そこで次の4つを研究課題に設定する。

- 1 because 節を断片文として産出する学習者は、理解の上でも断片文を容認可能とするか。
- 2 習熟度が低い学習者ほど because 節を断片文として産出するか。
- 3 習熟度の低い学習者は、because の直後に不必要なコンマを打つか。
- 4 because 節の習得に関して、何が影響しているか。

### 3. 調査方法

本節では、本研究で行った調査の対象者、方法、手順について示す。

### 3.1 対象者

神奈川県内の公立高校の日本人高校2年生で、筆者が指導するコミュニケーション英語Ⅱの1クラス39人を調査対象者とした。このうち、because節の産出を見るために実施した「英語表現力調査」（以下、表現力調査）（付録1）、接続詞の理解を見るために実施した「英語理解度テスト」（以下、理解度テスト）（付録2）の両方のテストを受験し、アンケート（付録3）に回答した最終的な調査対象者数は、38人であった。この38人の英語力は、ベネッセコーポレーション主催のGTEC for STUDENTSのトータルスコアをCEFR-Jに換算したレベルで見ると、B2が1人、B1.2が7人、B1.1が8人、A2.2が21人、A2.1が1人であった。

### 3.2 方法

調査は、筆者が指導するコミュニケーション英語Ⅱの授業の3回分の一定時間を用いて行った。令和2年6月中旬に調査対象者のbecause節の産出を見るために表現力調査を配付し、実施後すぐに回収した。次の授業時に調査対象者の接続詞の理解を見るために理解度テストを配付し、実施後すぐに回収した。それぞれの解答の正誤を確認、分析後、約2週間後にそれぞれの調査用紙を返却するとともにアンケートを配付した。アンケートは実施後すぐに回収し、分析を行った。

### 3.3 手順

表現力調査には、調査の目的とともにテストを受けるのは任意であり、結果は成績に入らないことを明記し、回答に協力するよう依頼した。表現力調査は2つの設問からなる。because節が産出されやすい条件下でデータを収集することを念頭に、設問1は「英語以外の言語を学ぶとしたら、どの言語を学びたいと思いますか。またそれはなぜですか。」という日本語の問いに英語で解答する形式とした。英語でWhy～?と質問した場合、機械的にbecause節の断片文が産出される可能性があるため日本語で質問した。設問2は、全国学力調査の設問を参考にした。全国学力調査の設問は、「学校」を表す2つのピクトグラム案について英語で書き表すもので、文部科学省・国立教育政策研究所（2019）は、「2つの案の対比を通して、理由を明らかにしながら、自分の考えを書くことができるかどうかをみるために出題した」（p. 62）と述べている。この設問の12の誤答例のうち、because節の断片文使用が6例示されている<sup>2</sup>（甲斐，2021）ことから、because節の使用状況を抽出し、確認する方法としてふさわしいと考えた。そこで、設問2を「日本を訪れる外国人旅行者に分かりやすい駐車場（parking lot）を表すピクトグラム（案内用記号）として、どちらが良いと思いますか。2つのピクトグラム（AとB）について触れながら、あなたの考えを理由とともに20語以上の英語で書いてください。」とした（下線は原文のまま）。調査開始約10分後に用紙を回収し、内容を分析した。

理解度テストには、調査の目的とともにテストを受けるのは任意であり、結果は成績に入らないことを明記し、回答に協力するよう依頼した。テストは、白畑（2015）を参考に「文法性判断+誤り訂正」形式とし、because節の断片文に関する設問が

2問、他の接続詞、前置詞に関する設問が8問の合計10問であった<sup>3</sup>。becauseに限定すると調査対象者が誤りと認識し訂正できる可能性があるため、他の接続詞や前置詞も含めた。調査開始約10分後に用紙を回収し、内容を分析した。

約2週間後に、アンケートを配付した。アンケートには、調査の目的、成績評価などで不利にならないことを記し、回答に協力するよう依頼した。アンケートは、because節の誤った書き方と正しい書き方についての解説が明示され、3つの設問から構成された。設問1は、because節の正用法についての知識をたずねる設問であった。設問2は、設問1でbecause節の正用法について「知っていた」と回答した調査対象者が用法を知った時期について5択から選択するデザインとした。甲斐（2019）のアンケートのあいまいさを解消することで、because節の定着時期を明らかにできると考えた。設問3は、設問1でbecause節の正用法を「知らなかった」と回答した調査対象者が答えるもので、誤った書き方のように書いた、または書く理由を複数回答が可能な形で5択から選択するデザインとした。なお、設問中の「その他」を調査対象者が選んだ場合、具体的に記述するよう求めた。アンケート配付約10分後に回収し、内容を分析した。

#### 4. 結果

表現力調査及び理解度テストの両方を受験し、アンケートに回答した最終的な調査対象者38人のうち、表現力調査の設問1、設問2でbecause節を正しく使用できたのは、それぞれ11人、6人、断片文として使用していたのは、それぞれ15人、11人、because節を用いずに解答していたのは、それぞれ12人、21人であった。表1は、表現力調査におけるbecause節の使用人数及び比率を表したものである。

表1. 表現力調査におけるbecause節の使用人数及び比率

	設問1		設問2	
	人数	比率	人数	比率
正用法	11	29%	6	16%
断片文	15	39%	11	29%
未使用	12	32%	21	55%
合計	38	100%	38	100%

理解度テストの設問1、設問2についてbecause節の誤りを指摘し、訂正できたのは、それぞれ13人、14人、断片文のまま正しい英文と判断し訂正しなかったのは、それぞれ25人、24人であった。表2は、理解度テストにおけるbecause節の文法性判断の人数及び比率を表したものである。

表2. 理解度テストにおける because 節の文法性判断の人数及び比率

	設問 1		設問 2	
	人数	比率	人数	比率
正用法に訂正	13	34%	14	37%
断片文のまま	25	66%	24	63%
合計	38	100%	38	100%

理解度テストでは、because 節の断片文を誤りとしなかった調査対象者が、表現力調査で because 節を断片文として使用していた人数よりも大幅に増えている。そこで、表現力調査及び理解度テストにおける because 節に係る解答類型を次の表3にまとめた。調査対象者38人の解答類型は16通りに分類された。

表3. 表現力調査及び理解度テストの解答類型及び人数

解答類型	表現力調査		理解度テスト		人数
	設問 1	設問 2	設問 1	設問 2	
A	○	○	○	○	2
B	○	○	断	断	2
C	○	断	断	断	1
D	○	未	○	○	3
E	○	未	断	断	3
F	断	断	○	○	3
G	断	断	断	断	5
H	断	未	○	○	1
I	断	未	断	断	6
J	未	○	○	○	1
K	未	○	断	断	1
L	未	断	○	○	1
M	未	断	断	断	1
N	未	未	○	○	2
O	未	未	断	○	1
P	未	未	断	断	5
合計					38

「○」は because 節の正用法, 「断」は because 節の断片文, 「未」は because 節を用いずに解答

解答類型 A は、表現力調査の2問とも because 節を正しく使用し、理解度テストの2問とも because 節断片文を訂正できたことを示しており、その人数は2人だった。最も人数が多かったのは解答類型 I の6人であった。この解答類型は表現力調査の設問1で断片文を使用したか、設問2ではで because 節を使用せず、理解度テストの2問とも断片文を容認していたことを表す。解答類型 G は、表現力調査の両問で because 節を断片文として使用し、理解度テストの2つの設問で断

片文を容認した者で、5人であった。なお、表現力調査のいずれかの設問で because 節の断片文を使用し、理解度テストでも断片文を容認していたのは、解答類型の C, G, I, M の合計13人であった。全体の34.2%で、3人に1人以上に相当した。

ここでアンケートの回答について述べる。設問1は、because 節の正用法について選択するもので、「知っていた」は20人、「知らなかった」は18人であった。

設問2は、設問1で「知っていた」と回答した20人が回答するもので、小学校の時と回答したのは0人、「中学校の先生」と2人が回答、「中学校の塾の先生」が6人、「高校1年生の先生」が2人、「高校1年生の塾の先生」が1人、「高校2年生の先生」が4人、「高校2年生の塾の先生」が1人、「その他」が4人であった。「その他」4人の内訳は、「中3の時に、英検の writing の本で」、「高1 / 英会話の先生」、「幼稚園がインターナショナルスクールだったのでそこで習ったかもしれないです。どこでとかは正直覚えていません」、「いつかはわからない」であった。

設問3は、設問1で「知らなかった」と回答した18人が回答するもので、誤った書き方や断片文を使用する理由について複数回答が可能であった。その結果、「中学校の英語教科書の影響」のみが2人、「日本語の影響」のみが10人、「中学校の英語教科書の影響」及び「日本語の影響」が3人、「中学校の先生の影響」及び「その他」が1人、「日本語の影響」及び「その他」が2人であった。「中学校の先生の影響」及び「その他」の1人の「その他」の内容は、「英作文の本で読んだ記憶があったため」、「日本語の影響」及び「その他」の2人のうちの1人の「その他」の内容は、「接続詞の知識があいまいだった」と、もう1人は、「文頭に書いても接続して書いてもどちらでも不正解にされることがなかったから」であった。

調査対象者の習熟度別の人数は、B2が1人、B1.2が7人、B1.1が8人、A2.2が21人、A2.1が1人であった。習熟度毎の解答類型人数を表4にまとめた。

表4. 習熟度毎の解答類型人数

習熟度	解 答 類 型															計	
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O		P
B2				1													1
B1.2	1				1	2		1						1			7
B1.1	1		1	1			1		1	1	1				1		8
A2.2		2		1	2	1	4		5				1	1			21
A2.1									1								1
計	2	2	1	3	3	3	5	1	6	1	1	1	1	2	1	5	38

調査対象者38人中、B2の調査対象者は解答類型Dで、表現力調査で because 節を断片文として使用せず、理解度テストで断片文を訂正していた。アンケートで正用法を「知っていた」と回答し、その時期については「その他」を選び、「幼稚園がインターナショナルスクールだったのでそこで習ったかもしれないです。どこでとかは正直覚えていません」と記述した。

B1.2の調査対象者7人では解答類型A, E, H, N, Pが1人ずつ、解答類型Fに

2人が該当した。解答類型H, Fは表現力調査の1問または2問で断片文を使用していたが、理解度テストでは断片文を訂正できたことを表す。この3人はアンケートで正用法を「知っていた」と回答し、1人は中学生の時の塾の先生に教わったと回答し、2人は「高校2年生」と答えていた。この2人に確認したところ、表現力調査と理解度テストの間に行われた「英語表現Ⅱ」の習熟度別クラスの授業で指導があり、「知っていた」と回答したことがわかった。解答類型E, Pは理解度テストの2問とも断定文を容認していた。解答類型Eの1人はアンケートで正用法を「知らなかった」と回答し、日本語の影響を示唆する回答をした。解答類型Pの1人は「知っていた」と回答し、高校1年生の学校の先生から教わったと回答した。

B1.1の調査対象者8人では解答類型A, C, D, G, J, K, L, Oが1人ずつだった。解答類型Cの1人は表現力調査の設問1でbecauseを正しく用いたが、設問2で断片文を使用し、理解度テストで断片文を容認した。アンケートでは正用法を「知らなかった」と回答し、中学校の授業の指導を示唆する回答をした。解答類型Gの1人は表現力調査の両問で断片文を使用し、理解度テストで断片文を容認した。アンケートでは正用法を「知らなかった」と回答し、日本語の影響を示唆する回答をした。解答類型Kの1人は表現力調査の1問でbecauseを正しく用いたが、理解度テストで断片文を訂正できなかった。アンケートには正用法を「知らなかった」と回答し、中学校教科書の影響を示唆する回答をした。解答類型Lの1人は、表現力調査の1問で断片文を使用したが、理解度テストでは訂正していた。アンケートで正用法を「知っていた」と回答し、中学校の先生から教わったと答えた。解答類型Oの1人は、表現力調査では断片文を用いず、理解度テストの1問で、後続の断片文を主節の前に置き、主節と従属節からなる英文に訂正していた。アンケートでは「知っていた」と回答し、中学生の時の塾の先生から指導を受けたと答え、「私立高校を目指していたからきちんと覚えておくように言われた」とのことであった。

A2.2では解答類型B, Eが2人ずつ、解答類型D, F, M, Nが1人ずつ、解答類型G, Pが4人ずつ、解答類型Iが5人だった。解答類型Gの4人は、表現力調査の両問で断片文を使用し、理解度テストで断片文を容認した。アンケートで2人が正用法は「知らなかった」と回答し、1人は日本語の影響を示唆する回答をした。もう1人は設問1でbecauseの直後にカンマを置いており、日本語の影響とその他「接続詞の知識があいまいだった」と回答した。残りの2人は「知っていた」と回答し、1人は中学校の時の塾の先生、もう1人は高校1年生の時の塾の先生を示唆する回答を行った。解答類型Iの5人のうち4人は正用法を知らず、日本語の影響を示唆する回答を3人が、日本語と中学校教科書の影響を挙げたのが1人だった。残りの1人は用法を知っていて、中学校の塾の先生からの指導と回答した。解答類型Pの4人は正用法を「知らなかった」と回答し、2人は日本語と教科書の影響を、1人は日本語の影響を、残りの1人は中学校の時の学校の先生及び塾の先生からの指導を示唆する回答をした。解答類型Fの1人は表現力調査で断片文を使用したが、理解度テストでは訂正していた。アンケートでは正用法を「知っていた」と回答し、その時期が高校2年生であったことから、先に指摘した英語表現Ⅱ

の指導のため修正できたものと推察される。解答類型 M の 1 人は正用法を「知らなかった」と回答し、日本語の影響を示唆するとともにその他「文頭に書いても接続して書いてもどちらでも不正解にされることがなかったから」と記述していた。

A2.1は解答類型 I の 1 人であった。正用法を「知らなかった」と回答し、日本語の影響を示唆する回答を行った。

習熟度が異なる調査対象者が表現力調査で書いた英文を紹介する。設問 1 は英語以外に学びたい言語とその理由を英語で表現する問いであった。図 1 は、習熟度が B1.2 で解答類型 F の調査対象者 2 人のうちの 1 人、調査対象者 A の作文である（強調は筆者による、図 2～図 4 も同様）。習熟度が高く、中学校の時の塾の先生から指導を受けて正用法について知っていたにもかかわらず断片文を使用していた。

I want to learn French. **Because** I want to go to France in the future. I will try to communicate with local people and study history of France.

#### 図 1. 調査対象者 A の設問 1 の作文

図 2 は、習熟度が A2.2 で解答類型 G の調査対象者 B の設問 1 に対する作文である。調査対象者 B は because の直後に不必要なコンマを置いていた。不必要なコンマを置いていたのは、調査対象者 B 以外には、1 人しかいなかった。この 1 人の習熟度も A2.2 で、設問 1, 2 の両方の作文で because 節を断片文として用い、because の直後に不必要なコンマを置いていた。

I want to learn French. **Because,** I love one French movie, "Amemri". Ameri is a cute woman. I love her. I want to understand what she said in French.

#### 図 2. 調査対象者 B の設問 1 の作文

表現力調査の設問 2 は、2 つのピクトグラムに触れながら、理由と考えを述べるものであった。図 3 は調査対象者 A の作文である。アンケートから断定文使用の原因を特定できないが、日本語を英語に置き換えているのかもしれない。

I think B is better than A. **Because** it's easier to understand. For example, if foreigners look at A, they can recognize it to parking of bike. Therefore, I think B is better.

#### 図 3. 調査対象者 A の設問 2 の作文

図 4 は調査対象者 B の作文である。アンケートで断片文使用について、母語の影響を示唆する回答をしており、日本語を英語に置き換えている様子が窺える。

I choose B. **Because** it is easier to understand than A. Picture of car isn't difficult for the people who can't understand English. So, I think B better than A.

#### 図 4. 調査対象者 B の設問 2 の作文

## 5. 考 察

本研究では、研究課題を4つ設定した。研究課題1は「because節を断片文として産出する学習者は、理解の上でも断片文を容認可能とするか。」であった。調査対象者38人のうち、表現力調査のいずれかの設問でbecause節を断片文として使用し、理解度テストでもbecause節の断片文を正しいと認識していたのは13人であった。この研究課題では、「because節の断片文を産出しないが、理解の上で断片文を容認可能とする調査対象者」を念頭においていなかったため、例えば表現力調査でbecause節を用いず、理解度テストでは断片文を容認してしまう調査対象者（解答類型P）が5人もおり、うち4人は習熟度がA2.2で、正用法について正しい知識を持っていなかった。この4人は本研究では断片文を産出しなかったが、条件や状況が異なれば産出する可能性もある。because節を産出しやすい設問を追求する必要がある。

研究課題2は、「習熟度が低い学習者ほどbecause節を断片文として産出するか。」であった。調査対象者の習熟度別の人数は、B2が1人、B1.2が7人、B1.1が8人、A2.2が21人、A2.1が1人であった。表現力調査のいずれかの設問でbecause節の断片文を産出していたのは、B2が0人、B1.2が3人（解答類型Fが2人、解答類型Hが1人）、B1.1が3人（解答類型C、G、Lが1人ずつ）、A2.2が11人（解答類型Fが1人、解答類型Gが4人、解答類型Iが5人、解答類型Mが1人）、A2.1が1人（解答類型Iが1人）であった。習熟度が異なってもbecause節の断片文使用が見られた。ただし、十分な人数のデータが得られていないことから、今後の本格的な研究では十分な人数を確保する必要がある。

研究課題3は「習熟度の低い学習者は、becauseの直後に不必要なコンマを打つか。」であった。表現力調査の結果、習熟度A2.2の調査対象者2人だけが使用していた。より高い習熟度の学習者及びA2.1の学習者には見られなかった。日本人英語学習者が、不必要なコンマを接続詞の直後に打つのは母語が干渉している可能性があり、butについては高校生になっても顕著であることが指摘されている（立川, 2020）。表現力調査でbecause節未使用の調査対象者8人（解答類型N、O、P）がbecauseを用いて表現した場合、不必要なコンマを打つ調査対象者がいたかもしれない。

研究課題4は「because節の習得に関して、何が影響しているか。」であった。アンケートの結果、母語である「日本語の影響」と回答した人数が最も多く、次に「中学校の英語教科書の影響」、「中学校の先生の影響」、「中学校の塾の先生の影響」の順であった。コミュニケーション活動を重視する学校の授業と異なり、文法を効率よく明示的に指導すると考えられる「塾の先生」の指導の影響は少なかった。because節の産出にあたって日本語の「なぜならば」、「なぜか」と、「だって」などをBecause ... に置き換えて表現している傾向が強いことがわかる。教科書のインプットの改善（立川, 2020）やbecause節初出の段階からの適切な指導（白畑, 2015）が必要であろう。なお、アンケートの設問3で「中学校の英語の授業で、先

生から Because ... と書くように指導を受けたため。」の記述について、査読者1名から従属節が最初に来て、主節が後に続いているケースも考えられるとの貴重なご指摘を受けた。本研究の調査対象者は、because 節の断片文と理解して回答していたと考えているが、記述をより明確にすべきであった。A2.2で解答類型 G（表現力調査の両問で断片文使用、理解度テストで断片文容認）の4人のうち2人が、アンケートで正用法を「知っていた」と回答し、中学校、高校の塾の先生の指導を示唆する回答を行ったが、because 節を断片文として使用する原因は特定できなかった。アンケートの精度を高める必要がある。

## 6. おわりに

本研究の調査対象者は高校2年生の早い段階で調査を行った。佐々木(2021)は because 節の断片文は高校1年生を特徴づける文型であると述べていたが、本研究ではその特徴を残したまま進級してきたことを印象付ける調査結果であった。

表現力調査で用いた2つの設問のうち、全国学力テストを模して作成したピクトグラム設問では because 節を使わずに答える調査対象者が多かった。設問は「あなたの考えを理由とともに」と明記しているので、理由を示す because を使用すると想定していたが、実際には、どちらのピクトグラムがよいか述べた後、“I have one reason. The reason is ....” やそれぞれのピクトグラムの特徴を説明し表現していた。理解度テストでは、because 節の断片文を容認する人数が多かったことから、because 節に関する適切な指導が望まれる。

本研究の限界は、表題に示したように予備的研究であることから、調査対象者数が少なく、一般化できないという点が挙げられる。表現力調査や理解度テスト、アンケートの内容の改善を図り、今後の本格的な研究に向けて取り組みたい。

## 注

- 1 本論文では、接続詞 because が導く従属節を because 節と呼ぶ。
- 2 誤りの1例を原文のまま示す。“I choose B. Because it looks like a school building. And the children go to there. So, I think B is looks like a school. So I choose B.”(文部科学省・国立教育政策研究所, 2019, p. 65)
- 3 because 節の断片文に関する設問は付録2の設問4及び8である。以降、前者を設問1、後者を設問2と読み替えて論ずる。

## 引用文献

- Barker, D. (2010). *An A-Z of Common English Errors for Japanese Learners* (English Edition). Nagoya, Japan: BTB Press.
- 甲斐順 (2018). 日本人高校生による because 節の断片文としての使用に関する事例研究, JACET 関東支部紀要, 5, 34-44.
- 甲斐順 (2019). 日本の高校生英語学習者による because 節の断片文としての使用に関する調査結果：包括的な訂正フィードバックを通じて, *JAAL in JACET*

*Proceedings, 1*, 76-83.

- 甲斐順 (2021). 平成31年度 (令和元年度) 全国学力・学習状況調査 中学校 (英語) における because 問題. *Chart Network, 94*, 12-15.
- 小林雄一郎 (2009). 日本人英語学習者の英作文における because の誤用分析, 関東甲信越英語教育学会研究紀要, 23, 11-21.
- Larsen-Freeman, D., & Celce-Murcia, M. (2015). *The Grammar Book: Form, Meaning, and Use for English Language Teachers* (3rd ed.). Boston, MA: Heinle and Heinle.
- 南出康世 (編集主幹) (2014). *ジーニアス英和辞典 第5版*. 東京: 大修館書店.
- 文部科学省・国立教育政策研究所 (2019). 平成 31年度 (令和元年度) 全国学力・学習状況調査 報告書—児童生徒一人一人の学力・学習状況に応じた学習指導の改善・充実に向けて: 中学校 英語. Retrieved from <https://www.nier.go.jp/19chousakekkahoukoku/report/data/19meng.pdf>
- Murakoshi, R. (2012). The development of the use of 'because-clauses' by Japanese high school students. *コーパスに基づく言語学研究報告, 8*, 369-376.
- 佐々木恭子 (2021). 高校生の英作文に見る because 使用: 頻度・文中位置の視点から. *統計数理研究所共同研究リポート, 444*, 139-158.
- 白畑知彦 (2015). 英語指導における効果的な誤り訂正: 第二言語習得研究の見地から, 東京: 大修館書店.
- 立川研一 (2020). 日本人初級英語学習者の Writing における 'because' の使用傾向. *大分大学教育学部研究紀要, 41(2)*, 301-312.

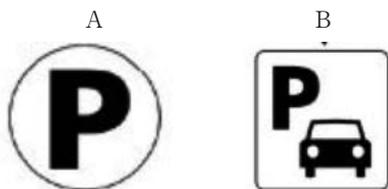
## 付録1

### 英語表現力調査

- ・この調査は皆さんの英語の表現力を調査することを目的として行います。
- ・この調査を受けるのは任意です。協力できる人は答えてください。
- ・調査の結果は、成績には入りません。

質問: 次の2つの質問に英語で答えてみてください。辞書や携帯電話などは使わずに、答えましょう。

- 1 英語以外の言語を学ぶとしたら、どの言語を学びたいと思いますか。またそれはなぜですか。
- 2 日本を訪れる外国人旅行者に分かりやすい駐車場 (parking lot) を表すピクトグラム (案内用記号) として、どちらが良いと思いますか。2つのピクトグラム (A と B) について触れながら、あなたの考えを理由とともに20語以上の英語で書いてください。なお、短縮形 (I'm や don't など) は1語と数え、符号 (. や ? など) は語数に含めません。



解答欄

1

2						5語
						10語
						15語
						20語
						25語
						30語
						35語
						40語

2年 \_\_\_\_\_ 組      \_\_\_\_\_ 番 名前 \_\_\_\_\_

ご協力ありがとうございました。

## 付録2

### 英語理解度テスト

- ・このテストは皆さんの英語の理解度を測定することを目的として行うものです。
- ・テストを受けるのは任意です。協力できる人は受けてください。
- ・テストの結果は、成績には入りません。

2年 \_\_\_\_\_ 組      \_\_\_\_\_ 番 名前 \_\_\_\_\_

○次の英文の中で、「文法的に不適格」または「言い方を変更した方がよい」と感じるものがあれば、( ) 内に×を書き、英文の下の空いているスペースに、正しい形を書いてください。「文法的に的確」だと思えば、( ) 内に○を記入してください。

- 1 Kyoko went to Yankee Stadium several times during she was in New York.  
( )
- 2 Keiko plays the piano before eating dinner. ( )

- 3 I went to the department store to buy a shirt yesterday. When, I accidentally met my homeroom teacher. ( )
- 4 Taro didn't buy anything in Kyoto. Because he had no money. ( )
- 5 Please wait for me in this room by 2 o'clock. ( )
- 6 If it is fine tomorrow, I will go fishing in the river. ( )
- 7 We went to the ramen shop. After, we practiced judo for two hours. ( )
- 8 I went to Yokohama yesterday. Because I wanted to buy a new bag. ( )
- 9 I have to send a letter to my father by tomorrow. ( )
- 10 I visited Oxford while my stay in the UK. ( )

ご協力ありがとうございました。

### 付録3

#### アンケート

これまでの調査で、皆さんの英語学習状況をかなり理解することができました。今後の指導にいかすためにさらにご協力をお願いします。なお、皆さんが成績評価などで不利になるようなことは絶対にありません。回答にあたっては該当する番号等を丸で囲んでください。

2年 組                      番 名前

今回多くの方が、次のように、誤った書き方で英文を書いていました。

#### 誤った書き方

I think B is better than A. Because it's easier to understand.

because は、when や if などと同じく、文と文をつなぐ役割（接続詞）を果たしています。次の会話文に見られるように Why? に対する返答の場合には、Because ～. として話したり、書いたりすることができます。

Aya: We usually eat soba on New Year's Eve.

Tina: Really? Why?

Aya: Because soba is long. It's a sign of long life.

(Columbus 21, 1, p. 122)

しかし、本来理由を述べる際、次のように1文で書かなければいけません。

#### 正しい書き方

I think B is better than A(,) because it's easier to understand.

(,) の部分はなくてもかまいません

設問1 あなたは because について上記のことを知っていましたか。

- 1) 知っていた→設問2へ 2) 知らなかった→設問3へ

設問2 設問1で「1) 知っていた」を選んだ人にたずねます。それはいつ知りましたか。また誰から教わりましたか。

- 1) 小学生の時 (学校の先生 / 塾の先生)  
2) 中学生の時 (学校の先生 / 塾の先生)  
3) 高校1年生の時 (学校の先生 / 塾の先生)  
4) 高校2年生の時 (学校の先生 / 塾の先生)  
5) その他 (具体的に書いてください→ )

設問3 設問1で「2) 知らなかった」を選んだ人にたずねます。設問1の(誤った書き方)のように書いた(書く)のは、どのような理由からですか。(複数選択可)

- 1) 中学校の英語の教科書が Because ... と書かれていたので、そのまま使っていた。  
2) 日本語の「なぜならば」「なぜか」というと「だって」などを Because ... に置き換えて表現したため。  
3) 中学校の英語の授業で、先生から Because ... と書くように指導を受けたため。  
4) 中学校の時通っていた塾の先生から Because ... と書くように指導を受けたため。  
5) その他 (具体的に書いてください→ )

ご協力ありがとうございました。

(かい じゅん・神奈川県立柏陽高等学校)

